

国語科学習指導案

令和5年12月 日第 校時

1 単元名 古人の心を感じよう～心に響いた一首について鑑賞文を書く～

2 単元設定の理由

(1) 生徒の実態

本学級の生徒は、明るく活発で、一問一答形式だとよく発表をする。しかし、自分でじっくり考えて文章を書くことを苦手とする生徒が多い。2年生の短歌の学習でも、鑑賞をするときに作品を選ぶことはできるが、なぜそれをよいと思ったのか、どの部分が印象に残ったのかなど自分の考えを文章に書き表すことに苦戦している生徒が多かった。「自分の気持ちを言葉でどうやって表現すればよいかかわからない」と悩む生徒もいる。そこで、「俳句の可能性」の学習では、作者がわずか十七文字で自分の伝えたいことを伝えるために、言葉の選別、表記の仕方、表現技法など、どのような工夫をしているのかを考えてから、言葉にこだわって俳句を創作させた。すると、相手に自分の思いを伝えるためにはどのような表現がふさわしいのかを考えて創作できた生徒が、2年生の短歌創作時より大幅に増えた。このときの学びを和歌の学習にもぜひ生かしたいと考えた。

(2) 単元観

本単元は我が国の言語文化を代表する三大和歌集から選ばれた十五首が掲載されており、和歌の内容を考えると同時にそれぞれの歌集の特徴を感じながら読むことで、古典に親しむことができる教材である。また、取り上げられている和歌は家族愛や自然美、恋愛など、「俳句の可能性」で学習したものと同様に、生徒にとって身近にある事象を題材にしているものが多く、親しみをもちやすいと考える。和歌を音読し、表現の効果やリズムを味わわせるとともに、和歌に込められた作者の心情や和歌に表された情景、表現方法などに対して自分なりの考えをもたせたい。そして、古人のものの見方や考え方や現代に生きる自分の知識や経験を結び付けて、考えを広げたり深めたりして鑑賞文を書かせたいと考え、本単元を設定した。

(3) 指導上の工夫

- ・班学習で発表に使ったワークシートをタブレットに取り込み、学習アプリで共有して、鑑賞文を書くときの参考にさせる。
- ・鑑賞文を書くときにタブレットを使用することで、書き直しがしやすくなり、書くことへの抵抗が少なくなるようにする。

3 単元の目標

- ・歴史的背景などに注意して古典を読むことを通して、その世界に親しむことができる。
[知識及び技能] (3) ア
- ・長く親しまれている言葉や古典の一節を引用するなどして使うことができる。
[知識及び技能] (3) イ
- ・文章の構成や論理の展開、表現の仕方について評価することができる。
[思考力、判断力、表現力等] C (1) ウ
- ・言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。
「学びに向かう力、人間性等」

4 本単元における言語活動

三大和歌集から心に響いた一首を選び、鑑賞文を書く。

(関連：[思考力、判断力、表現力等] C (2) イ)

5 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①歴史的背景などに注意して古典を読むことを通して、その世界に親しんでいる。 ((3) ア)	①「読むこと」において、文章の構成や論理の展開、表現の仕方について評価している。 (C (1) ウ)	①進んで表現の仕方について評価し、見通しをもって鑑賞文を書こうとしている。
②長く親しまれている言葉や古典の一節を引用するなどして使っている。 ((3) イ)		

6 指導と評価の計画 (全3時間)

時	学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法等
1	<ul style="list-style-type: none"> 単元のめあてを確認する。 三つの和歌集の和歌を音読し、言葉の響きやリズムを味わう。 班で分担し、和歌の内容をおおまかにまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> 和歌のリズムを大切にしながら音読させる。 脚注や資料を参考にして、それぞれの和歌に詠まれた心情や情景を捉え、自分なりの現代語訳を考えたり、句切れや表現方法をまとめたりさせる。 	<p>[知識・技能] ① ワークシート</p> <ul style="list-style-type: none"> 和歌に詠まれた心情や情景が捉えられているかを確認する。
2	<ul style="list-style-type: none"> 班でまとめたことを発表する。 三つの和歌集の歌を比較して、表現について感じたことなどを話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> まとめたワークシートをタブレット内の学習アプリで共有し、担当者の発表を聞きながら和歌の内容を確認させる。 発表中に気付いたことや教師の補足を教科書にメモさせる。 それぞれの和歌の印象を発表させ、歌集ごとの特徴を考えさせる。 「和歌の世界」や「仮名序」も思い出して、和歌が詠まれたそれぞれの背景や和歌が作られた経緯などを考えさせる。 	<p>[思考・判断・表現] ① ワークシート</p> <ul style="list-style-type: none"> それぞれの和歌から受ける印象や表現技法などについて自分の考えをもっているかを確認する。
3 本時	<ul style="list-style-type: none"> 自分の心に響いた一首を選び、鑑賞文を書く。 鑑賞文を互いに読み合い、交流する。 単元の振り返りをする。 	<ul style="list-style-type: none"> 和歌の中に表れた作者の心情や描かれた情景、表現の工夫などを考え、ワークシートに下書きさせてからタブレットを使って鑑賞文を書かせる。 読み手を意識して、自分の思いが相手に伝わるように書かせる。 自分の知識や経験と結び付けて書かせる。 友達の考えを知り、自分の考えを広げたり表現の参考にしたりさせる。 今回の学習で身に付いたことなど、項目に沿って学習を振り返らせる。 	<p>[知識・技能] ② ワークシート</p> <ul style="list-style-type: none"> 和歌の中の言葉を引用して書いているかを確認する。 <p>[主体的に学習に取り組む態度] ① タブレット、観察</p> <ul style="list-style-type: none"> 和歌の表現の仕方について評価し、見通しをもって鑑賞文を書こうとしているかを確認する。

7 本時の学習

(1) 目標

- ・心に響いた和歌を一首選び、鑑賞文を書くことができる。

(2) 展開

学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法
1 本時のめあてを確認する。	○タブレットでこれまでにまとめた十五首や三つの和歌集の特徴を振り返らせる。	
2 心に響いた和歌を一首選び、鑑賞文を書く。	○ワークシートに、選んだ一首を書き写し、和歌を読んで想像した作者の心情や描かれた情景、表現の仕方などに対して自分の考えをまとめさせる。 ○読み手を意識して、自分の思いが相手に伝わるように書かせる。 ○タブレットを使って清書させる。 ○歌が詠まれた状況を踏まえ、古人のものの見方や考え方と自分の知識や経験と結び付くところがないかを考えさせる。	[知識・技能] ② <u>ワークシート</u> ・和歌の中の言葉を引用して書いているかを確認する。 [主体的に学習に取り組む態度]① <u>タブレット、観察</u> ・和歌の表現の仕方について評価し、見通しをもって鑑賞文を書こうとしているかを確認する。
3 鑑賞文を互いに読み合い、交流する。	○鑑賞文を互いに読み合い、和歌についての理解を広げたり、自分の表現の参考にさせたりする。	
4 単元の振り返りをする。	○今回の学習で身に付いたことなど、項目に沿って学習を振り返らせる。	

(3) 評価及び指導の例

「十分満足できる」と判断される状況	・表現の効果などに気付き、引用している。 [知識・技能] ②
	・和歌を読んで想像した心情や情景、歌が詠まれた状況などを踏まえ、古人のものの見方や考え方と自分の知識や経験を結び付けて、鑑賞文を書こうとしている。 [主体的に学習に取り組む態度] ①
「おおむね満足できる」状況を実現するための具体的な指導・手立て	・和歌の中で印象に残った言葉を選ぶよう助言する。 [知識・技能] ②
	・和歌そのものが選べない生徒には、一番内容がわかりやすかったもので書くよう助言する。 ・「鑑賞文の書き方の手引き」を参考にして、選んだ和歌からどんなことを想像したのかが書けるようにする。 [主体的に学習に取り組む態度] ①